

支部だより

神奈川県支部 二月十九日に設立

二月十九日、日本李登輝友の会神奈川県支部（略称・神奈川李登輝友の会）の設立大会が横浜市内の神奈川県労働プラザ（通称Lプラザ）にて開かれました。新潟県支部を嚆矢として設立された本会支部は、この神奈川県支部で九番目となります。

昨年七月三十一日、田久保忠衛副会長と林建良常務理事を講師に神奈川講演会を開催しましたが、この講演会も支部設立を視野に入れてのもので、九月十一日に支部設立に向け、石川公弘理事を委員長に第一回準備委員会を開いています。神奈川県は約百七十人の会員を擁していますので、その後も何回か準備委員会を開き周到に準備を積み重ねてきました。

設立大会では、支部長には理事で石



支部長として挨拶する石川公弘氏（2月19日）

川台湾問題研究所代表や高座日台交流の会事務局長をつとめる元大和市議会議長の石川公弘氏、副支部長には池本好伸氏（理事・前釧路空港ビル取締役）、遠藤正弘氏（会社経営者）、野村勝美氏（会社経営者）の三氏、また事務局長には台湾研究フォーラム運営委員で日台鉄道愛好会代表の佐藤雅彦氏がそれぞれ選出されました。

さらに、大所帯にふさわしく理事の呉正男氏、神奈川県日華親善協会会長の酒井朝雄氏ら四名の顧問、羽田野直樹氏ら三名の事務局次長、小島干城氏

ら九名の幹事、栗山威郎氏ら二名の監査役と、総勢二十三名の役員が選出されています。

神奈川支部役員の特徴は、石川支部長、遠藤・野村副支部長など台湾李登輝学校研修団の卒業生が約六割を占めることです。

当日は、小田村四郎会長からも本会の目的などを述べた懇篤なメッセージが本部の片木裕一事務局次長の代読によって披露され、また、台湾から来日中の阮美妹さんがゲストとして挨拶。引き続き、林建良常務理事により「李登輝理念とはなにか」と題した記念講演が行われました（4頁参照）。

懇親会では、この前日に高砂義勇隊慰霊碑に参拝してきた池本副支部長から現状報告があり、続いて「高砂義勇隊慰霊碑の撤去に反対する決議」が満場一致で採択されています。

神奈川県には、台湾少年工が働いた高座海軍工廠の大和市・座間市、第四代総督をご祭神とする江ノ島の児玉神



産経新聞に掲載された福島李登輝友の会設立と林慎平氏の談話。

社など、台湾と所縁の深いところが少なくありません。結束力が強い神奈川李登輝友の会の今後の展開が大いに期待されます。

・神奈川県支部

〒二三二・〇〇七一 横浜市南区永田北3・18・4 佐藤方
TEL 045・713・7342
FAX 右同

福島県支部 三月十四日に設立

李登輝前総統の来日が報道されて以来、多くの県で支部設立に向けた動きも活発化してまいりました。この福島県支部もその一つです。

支部長に就任した林慎平氏は、福島

県内及び栃木県那須町に合わせて六カ所もの養殖施設をもつ国内最大規模の淡水魚養殖場である林養魚場（昭和十年創業）の代表取締役であるとともに、衆議院議員で本会会員でもある西村真悟代議士を囲む「日本真悟の会会長」としても活躍しています。昨年、十二月初旬には李登輝前総統を訪問し、本年二月には招請状を送っています。

これまで林建良常務理事が何度か講演に招かれていることや李前総統の東北訪問計画が伝えられたことで、今年に入って急速に支部設立の話が進み、本部の永山英樹事務局次長が三月十四日に訪問した折に最終的に設立を快諾、設立大会はまだ開いていないものの、この日を設立日といたしました。

三月二十六日付の産経新聞「福島エリア版」には「福島に李登輝友の会―奥の細道で熱烈歓迎」の見出しの下、林支部長に取材した記事が掲載されました。この中で、李登輝前総統とお会

いしたときの印象について「体が大きく、穏やかに話すが眼力が鋭く情熱的」と語り、「やりたい放題の中国ばかりに目が向いているが、日本に尊敬の念を抱いている台湾への考えを見直していかなくてはならない」と強調したことが紹介されています。

林支部長を中軸に、林養魚場の古参幹部でもある佐々木一彦氏を事務局長とする福島県支部は、今後、李登輝前総統の来日支援や日台交流セミナー、台湾関係者との親善交流を展開する予定だそうです。林支部長は今回の総会で理事に選出され、支部活動にも弾みがつきそうです。

・福島県支部

〒九六一・八〇六一 西白河郡西郷村大字小田倉字後原66 林養魚場内
TEL 0248・25・2041
FAX 0248・25・3232

福岡県支部 李前総統の石碑建立

大分県日田市大山町にあるリゾート

施設「ひびきの郷」に、日台友好の祈念碑として、李登輝前總統の揮毫になる「眞實自然」の文字を刻み込んだ大理石の祈念碑が建立された。また、祈念碑の脇には李前總統の武士道精神を称揚して「李登輝桜」と命名された桜樹も植栽された。

花曇りながら桜満開の四月九日、その除幕式が、周碩穎・駐福岡総領事、大矢野栄次・福岡李登輝友の会支部長などの関係者をはじめ、「ひびきの郷」の設立運営者である三笠善八郎前大山町長ほか百人余の町民が参加して盛大に挙行された。

旧大山町（現日田市大山町）は二〇〇四年十一月二十四日、隣県の福岡市に所在する福岡李登輝友の会及び台湾研究会の仲介により、台北県烏来郷との間で友好交流宣言書を交換調印し、友好交流町となった。李登輝前總統を尊敬し、福岡李登輝友の会理事でもある三笠前大山町長は、この歴史的な慶事を記念するため、同会を通じて李前

總統に揮毫を依頼、後日ほどなくして「眞實自然」の揮毫が贈られてきた。

三笠前町長は、日台友好親善の深化と発展を願い、「ひびきの郷」構内に祈念碑を建立することを思い立ち、町内外の賛同者からの浄財を得て、白大理石の石碑（縦一四〇cm、幅六〇cm、厚さ二〇cm）を完成させた。石碑の表面は五層重ねになっていて、「眞實自然」の意味するところが静かな波紋となっていて、ここ大山から世界五大陸に波及して行くことを願った、と製作者である大山石彫工房の社長は語っている。

この日、幕引きの大役を担ったのは台北から招かれて来町した、『日本人はとても素敵だった』を出版して日本にも多くのファンを持つ女流作家、楊素秋さん。町内の小学生で構成し、九州大会などで金賞を得ている大山ジュニアマーチングバンドの子供たちがファンファーレを演奏する中、幕が引かれて墨痕鮮やかな石碑が現れると、期せずして参加者から歓声と大きな拍手



李登輝前總統の揮毫になる「眞實自然」碑除幕式の模様と碑の傍らに植えられた「李登輝桜」（4月9日）

が沸き起こった。参加者の一人は「一国の大統領であった方が、こんな小さな町のために立派な揮毫を贈ってくださるとは、驚きと感激です」と、興奮の面持ちで語った。

この祈念碑と桜樹は、年間五十万人超の「ひびきの郷」来訪者を出迎える入口広場に位置しており、多くの人々に、末永く、李登輝閣下の精神と、烏来郷との深い友情を伝えることになるが、大山町では多くの台湾からの観光客も、ここ「ひびきの郷」を訪ねてくれることを期待している。

（福岡県支部事務局長・永嶋直之）